

2020 12/8

No.2128

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



J1は11月25日、首位の川崎フロンターレが2位のガンバ大阪を下して2季ぶり3度目の優勝。4試合残してのリーグ制覇は史上最速。



視点点描 3

コロナ禍とスポーツ

講演録 4

米・中・露の世界戦略にどう対抗するか

ジェイ・エス・エス会長 前衆議院議員 亀井 静香

経済双眼鏡 7

ブレーキなしの暴走

危機意識が欠如した菅政権

政治 8

「悪代官」と呼ばれた男

最長在職日数迎える大島衆院議長

社会 12

制度のもろさが浮き彫りに

コロナ禍の技能実習生問題

くらし2020 16

「看護師6割」で反対署名

アジアの風 18

アフガニスタン、未来を担う層が標的に

NNAアジア経済レポート 19

【お知らせ】 神奈川政経懇話会ではホームページ (www.kanagawa-seikon.jp) に会員コーナーを設けました。新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな情報を掲載します。問い合わせは事務局 ☎045 (226) 2121。

視点 点描



コロナ禍とスポーツ

サッカーJリーグ1部で、川崎フロンターレが3度目の優勝を決めた。11月25日に行われた2位のガンバ大阪との大一番は、5対0で圧勝。あと4試合を残した史上最速Vで、勝ち点も過去最多という、記録づくめの優勝だ。

J1昇格以来、2位や準優勝に甘んじる時期が長かったフロンターレだが、一昨昨年、一昨年と

連覇。3連覇こそ逃したが、今年もその実力を改めて見せつけた。

長らくチームを支えてきた中村憲剛選手が今季限りの引退を発表したシーズンだけに、チームもファンも、喜びはひとしおだったことだろう。

今季は、新型コロナウイルス感染症拡大の中で行われた、極めて異例のシーズンでもあった。2月の

開幕直後に約4カ月もの中断。試合日程は大幅に組み替えられ、チームの移動方法や観客の入れ方、取材のやり方などにも変化があった。選手もスタッフもサッカーとは違う緊張感とともに過ごすことを余儀なくされ、その中で終始高いパフォーマンスを維持したフロンターレは、危機管理を含むマネージメントの総合力の高さも見せたことになる。

プロスポーツは、今年は世界的に無観客での開催が主流になっている。サッカーも欧州の主要リーグは無観客。そんな中、日本ではJリーグもプロ野球も制限付きながら観客を入れて実施し、シーズンを終了することができた。感染対策など、関係者の努力で試合を開催し続けたことは高く評価される。

一方で、感染はここに来て第3波を迎えており、感染者数などの

指標となる数字は第1波、2波よりも悪くなっている。ワクチン開発の成否など、新型コロナウイルスへ求められる対応は日々変化しているが、特に来季の日本のスポーツ界は、延期された東京五輪・パラリンピックの開催可否をにらみながらのスタートとなり、各自の知恵を集めなければならぬ。今季のJリーグやフロンターレが乗り越えた苦労は、今後の、ウィズコロナ、アフターコロナの時代のプロスポーツのあり方を考える際の大きな経験値となるだろう。

今後もファンに語り継がれることになるであろう圧勝劇のシーズン。同時に、新たな生活様式の中でのプロスポーツが始まった年として、そのノウハウを生かさなければならぬ。

(神奈川新聞社川崎総局長

和城 信行)